

つくば市記者会 御中

発信日：平成31年（2019年）3月7日（木）

発信元：つくば市政策イノベーション部企画経営課

■取材依頼 □周知依頼 □募集告知 □その他

SDGsと官民連携による課題解決に関する勉強会を開催します



株式会社リディラバ安部代表と五十嵐市長との対談

概要：つくば市は、SDGs未来都市として、社会課題の解決方法を世界に発信し、持続可能な社会の実現を目指しています。今回対談を実施する株式会社リディラバは、社会問題をより身近なものとして感じられるツアーの実施や、社会課題解決の主体となる組織を集めたカンファレンスイベントを開催することで、官民連携の促進を目指しています。

今回の対談を機会に、両者の連携・協力の可能性を探り、新たな課題解決のかたちを模索していきます。

※（株）リディラバ概要及び安部代表略歴：別紙参照

日時：3月14日（木）17:00~18:30

場所：つくば市役所5階 庁議室

対象：つくば市議会議員及びつくば市職員



株式会社リディラバ 安部代表

内容：安部代表「リディラバの取組について」（30分）
市長との対談（30分）
質疑（30分）

リディラバ概要

1. 組織概要

株式会社Ridilover/一般社団法人リディラバは社会課題が解決しないのは人々の無関心にあると考え、「社会の無関心の打破」をミッションに活動している。人々が社会問題に関心を持たない理由としては「3つの壁」があるからだとしている。1つ目がそもそも社会課題に興味がないという「興味の壁」。2つ目が社会課題を十分に掘り下げたメディアがないことに伴い、正しい情報にリーチできない「情報の壁」。3つ目が当事者の人たちとどう関わっていいかわからない「現場の壁」。「3つの壁」を取り払うべく、それぞれの壁に対応した事業を展開している。団体発足は2009年。代表の安部敏樹が東京大学在学中に設立。「リディラバ」という組織名は「Ridiculous things lover（バカバカしいことが好きな人）」の略語。社会問題というテーマを、よりおもしろく伝えることにこだわり、社会問題に関わる人の間口を広げていくべく活動している。

2. 事業概要

(1)教育旅行の企画運営

1つ目の「興味の壁」に対応する事業として、中高生の修学旅行にリディラバのスタディツアーを提供している。スタディツアーには独自のノウハウによって社会課題に興味を持っていない中高生からも興味を引き出す設計となっている。これまで250種類以上のスタディツアーを実施し、参加者は8,000人を超。

(2)Ridilover Journalの運営

2つ目の「情報の壁」に対応する事業として、2018年1月から「社会課題の構造化」をテーマにオンラインメディア「Ridilover Journal」を運営している。メディアでは、「フードロス」「奨学金」「教員の働き方」などをテーマに、1テーマについて約一週間をかけて特集。社会課題に関わる様々なステークホルダーへの取材を通して、課題を構造的に理解できる記事を発信している。

(3)法人事業・地域協働事業

3つ目の「現場の壁」に対応する事業としては、社会課題という新しいマーケットを開拓すること・社会課題に携わる人を増やすことを目的に、企業や地方自治体と協働して事業を展開している。地方自治体には移住定住施策の一環として弊社のツアーを提供している。地域にある課題を、魅力的なツアーコンテンツへと編集し、首都圏からの参加者が地域を訪れるきっかけづくりを行っている。

3. 弊社実績

官公庁 受託事業

観光庁「平成27年度 観光地ビジネス創出の総合支援事業」

経済産業省『「未来の教室」実証事業（類型b「現実の社会課題」を題材とした実践的能力開発プログラムを通じた実証事業）』

復興庁 関係人口増加プロジェクト事業への参画（受注：NECソリューションイノベータ）

地方自治体 移住促進関連事業

長野県：「人口定着豊かな暮らし助成金」事業

長野県：農村交流事業（実施場所：長野県伊那市）

富山県立山町：定住コンシェルジュPR事業

長野県信濃町：地域課題解決に向けた移住定住促進事業

鹿児島県長島町：血縁によらない事業継承モデル調査事業

広島県府中市：府中市移住促進スタディツアー事業

広島県世羅町：移住定住促進事業

兵庫県香美町：移住定住促進事業

福島県南相馬市：移住定住促進事業

地方自治体 研修・コンテンツ関連事業

青森県：教育旅行誘致に向けたスキルアップ研修事業

代表略歴

安部 敏樹（あべ としき）

1987年京都府生まれ。2006年東京大学入学。東京大学在学中、社会問題をツアーにして発信・共有するプラットフォーム『リディラバ』を2009年に設立。250種類以上の社会問題のスタディツアーの実績があり、これまで8,000人を社会問題の現場に送り込む。また都立中学の修学旅行や企業の研修旅行などにもスタディツアーを提供する。

2012年度より東京大学教養学部にて1・2年生向けに社会起業の授業を教え、2014年度より同大学で教員向けにも講義を持つ。2017年、米誌「Forbes（フォーブス）」が選ぶアジアを代表するU-30選出。総務省起業家甲子園日本一、学生起業家選手権優勝、ビジコン奈良ベンチャー部門トップ賞、KDDI∞ラボ第5期最優秀賞など受賞多数。第2回若者旅行を応援する取組表彰において観光庁長官賞（最優秀賞）を受賞。著作に『日本につけるクスリ（竹中平蔵氏との共著）』（ディスカヴァー・トゥエンティワン）『いつかリーダーになる君たちへ』（日経BP）などがある。

